短期特別課題

条幅の基礎を学ぶ

半切四分の一に書く（10）

締切り　十月二十五日（必着）

神谷葵水先生書

◎本誌に条幅（半切）の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことで、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ（約六八㎝×一七、五㎝）で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 秋雨帯虫聲（しゅううむしのこえをおぶ）

〔大意〕 秋雨の音に虫の声が交じって聞こえてくる。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て、表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べることが肝要です。

・落款（署名・印）も作品の一部です。丁寧に収めましょう。

〔作品の出し方〕

▼**毛筆部＝条幅半切四分の一（約六八㎝×一七、五㎝）に書いて下さい。**

▼硬筆部＝Ｂ５判（二五七㎜×一八二㎜）以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。（フェルトペン・筆ペン可）

▼出品制限の対象とはしませんので、どなたでも出品できます。ただし出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼**事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績（硬筆の場合は硬筆規定の成績）を、作品余白にお書き下さい。**

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位は発表はしません。

一般部規定課題

締切り　10月25日（必着）

新入から1級まで

時と潮汐は何人をも待たない　イギリスの諺

〔解　説〕

時　潮（ちょう）　汐（せき）　何（なん）　人（ぴと）　待　諺（小さく）

大谷清城（おおたにせいじょう）　書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

準初段から六段まで

山勘というのは磨けば磨くほど当たる確率が大きい

▶**教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。**

◎今月は楷書。楷書は文字の組み立ての基礎ですから、一線一画大切に運ペンし、常に精習する努力が上達の早道です。

〔解　説〕

山　勘　磨　当　確　率　大

岡田龍芳（おかだりゅうほう）　書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

★時と…（書体＝行書）

イギリスのことわざ

潮汐（ちょうせき）とは、海水の満ち干（ひ）のこと。時間としおの満ち干は、決して人を待ってはくれません。どんなに大声で叫ぼうとも帰ってきてはくれません。

現在という時間の大切さを表した名言ですが、若い時ほど時間に無頓着な傾向があることは残念なことです。

◆**11月課題予告**（楷書）

小忍（しょうしの）ばざれば
則（すなわ）ち大謀（たいぼう）を乱る
論　語

★山勘（やまかん）…（書体＝楷書）

小柴昌俊（一九二六〜）

物理学者・ノーベル物理学賞受賞

山勘といえばあてずっぽうのことで、物理学とは程遠い感じがします。しかし、長年打ち込んできたことに関してならば蓄積された経験や知識によって鍛えられた「勘」は、侮りがたいものとなるでしょう。

◆**11月課題予告**（行草または草書）

人は流水に
鑑（かん）みるなくして
止水に鑑みる

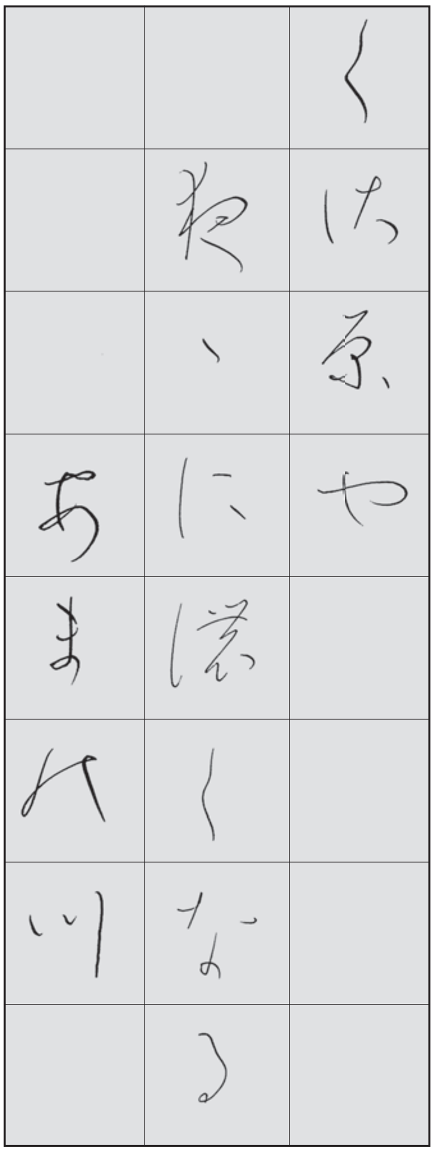
▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

一般部かな課題

締切り　10月25日（必着）

新入から1級まで



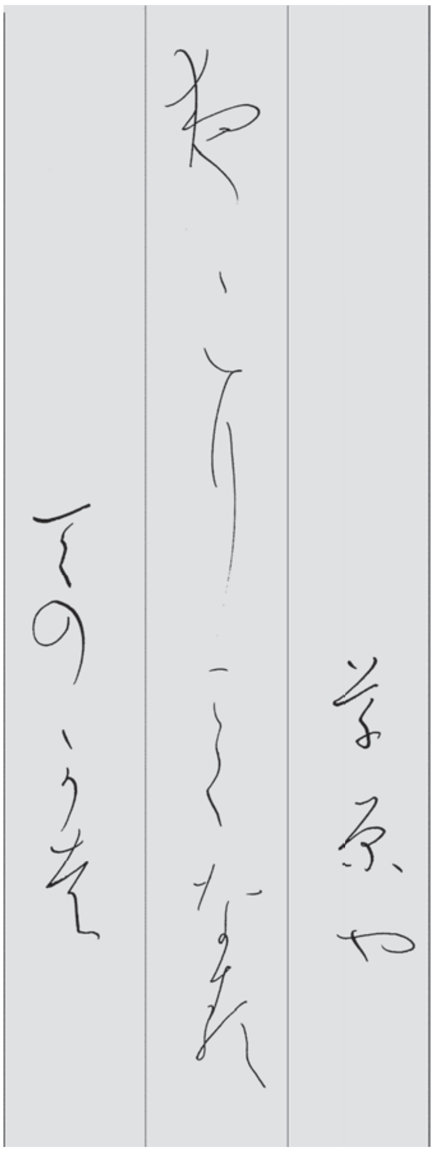
草（く佐）原や夜々（ゝ）に濃くなる天（あま）の（能）川

大宮（おおみや）春兆（しゅんちょう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

準初段から六段まで



草原や夜々（ゝ）に（耳）濃（こ）くなる（類）天の川（可者）

大宮（おおみや）春兆（しゅんちょう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

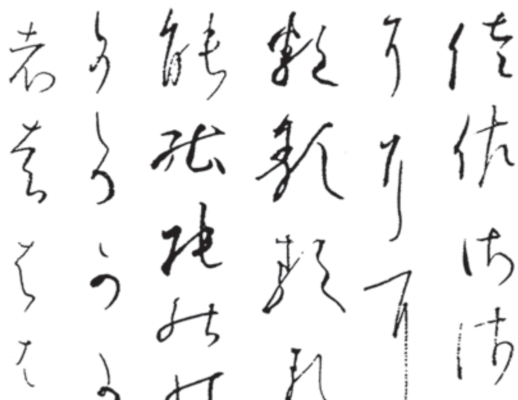
■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

草原（くさはら）や夜々（よよ）に濃（こ）くなる天の川（あまがは）
（臼田亜浪（うすだあろう））

〔句意〕新たに居を構えたわが家からの眺めは、一面に茫々（ぼうぼう）たる草原が続き、その草叢（くさむら）からは虫の音がしきりに聞こえてくる。天上の天の川は夜毎に一段と濃さを増して秋気を深めていることである。

〔古筆参考〕

佐（さ）　耳（に）　類（る）　能（の）　可（か）　者（は）



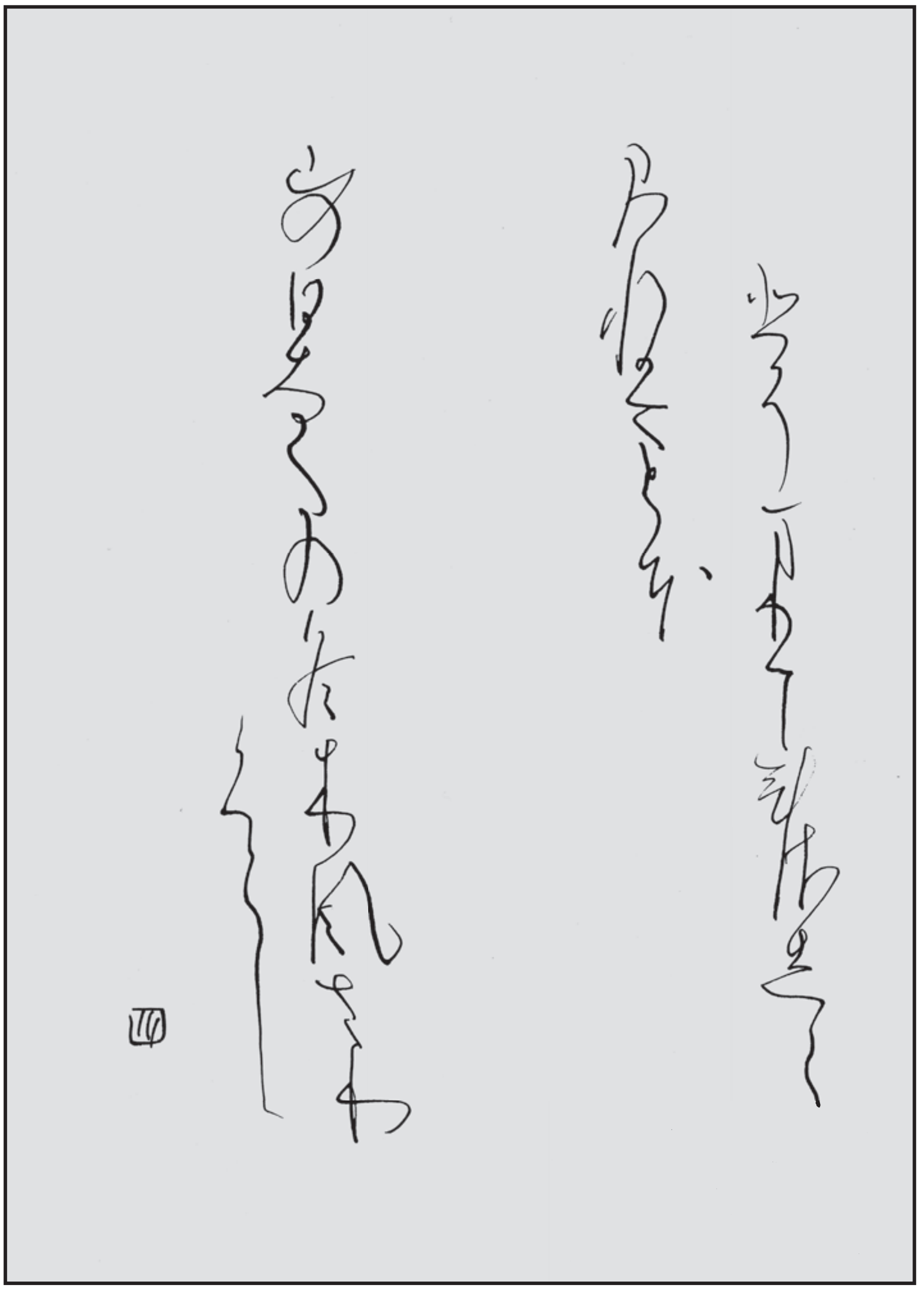
◆11月課題予告

凩（こがらし）の吹きあるゝ中（なか）の午砲（ごはう）かな
（内藤鳴雪（ないとうめいせつ））

一般部かな課題

師範・教範・書範

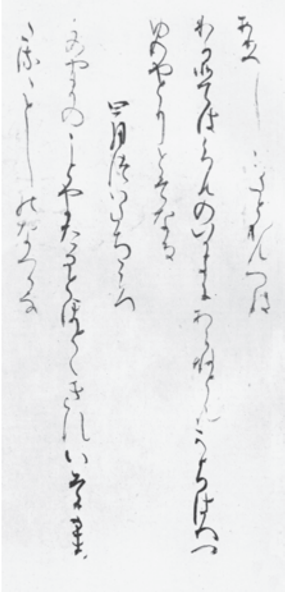
締切り　十月二十五日（必着）



簗(やな)瀬(せ)舟(しゅう)香(こう)書

〔古筆参考〕

和泉式部続集切(いずみしきぶぞくしゅうぎれ)



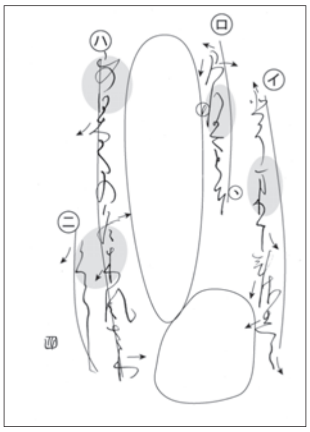
あり(利)へしか(可)た(多)とお(於)も(无)へば
わが(可)そ(所)ではく(无)ものいが(可)き(支)に(尓)あらねども(无)うちはへつ
ゆのやどりとぞなる
　四月つい(徒)た(多)ちごろ
か(可)のやまのことやか(可)たるとほとゝぎす(須)いそぎ(支)ま
た(多)る(流)ゝとしの(能)なつか(可)な(奈)

ひ(悲)そ(曽)ま(万)り(利)て久し(飛佐志)く見ればとほ(盤本)山の
ひなた(日奈多)の冬木風さわぐらし

〔解説〕

〔出典〕名歌即訳　若山牧水

〔歌意〕木陰で一休みしながら、遠くの山をしばらくのあいだ見ていると、陽があたる冬の木立で風が騒いでいることに気づいた。



- (イ)と(ハ)、(イ)と(ニ)、(ロ)と(ハ)、(ロ)と(ニ)、それぞれ呼応。
- 行の密の動き大切。
- ↙の方向大切。
- ◯大きな間大切。
- 意連大切。
- 〔ヽ〕の位置注意。

◆11月課題予告

海見ても雲あふぎてもあはれわが
おもひはかへる同じ樹蔭(こかげ)に

実用文のページ

締切り　１０月２５日（必着）

町民運動会で親子三代リレーの
出場が決まりました。走るのは
子供の幼稚園での大玉ころがし
以来です。家族でいちばん張り
切っているのはお祖父さん。私も
負けじ魂で毎日走っています。

作品の出し方

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。

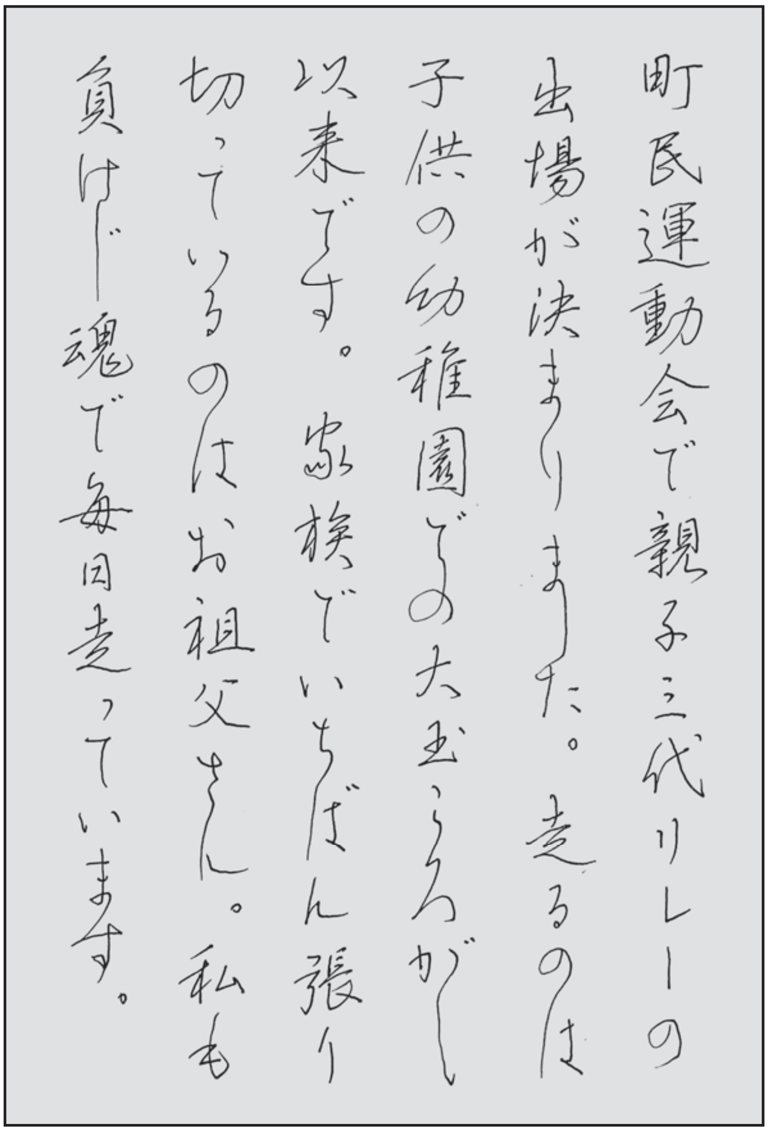
■ 用紙＝はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。

■ 用具＝はがき、横書き課題ともに自由。（黒色に限る）

■ 両課題とも、書体変換は自由です。

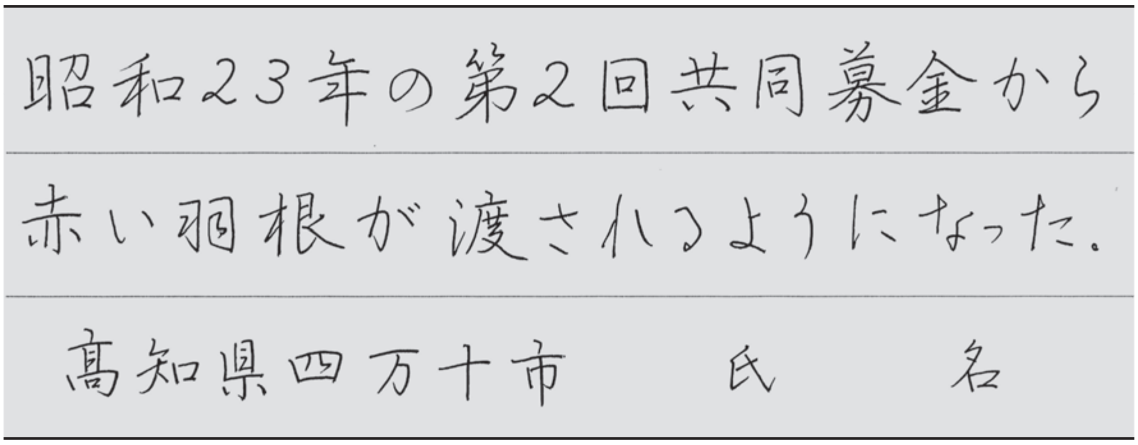
はがき課題

奥田三雲（おくだみくも）書



横書き課題

尾郷翠光（おごうすいこう）書

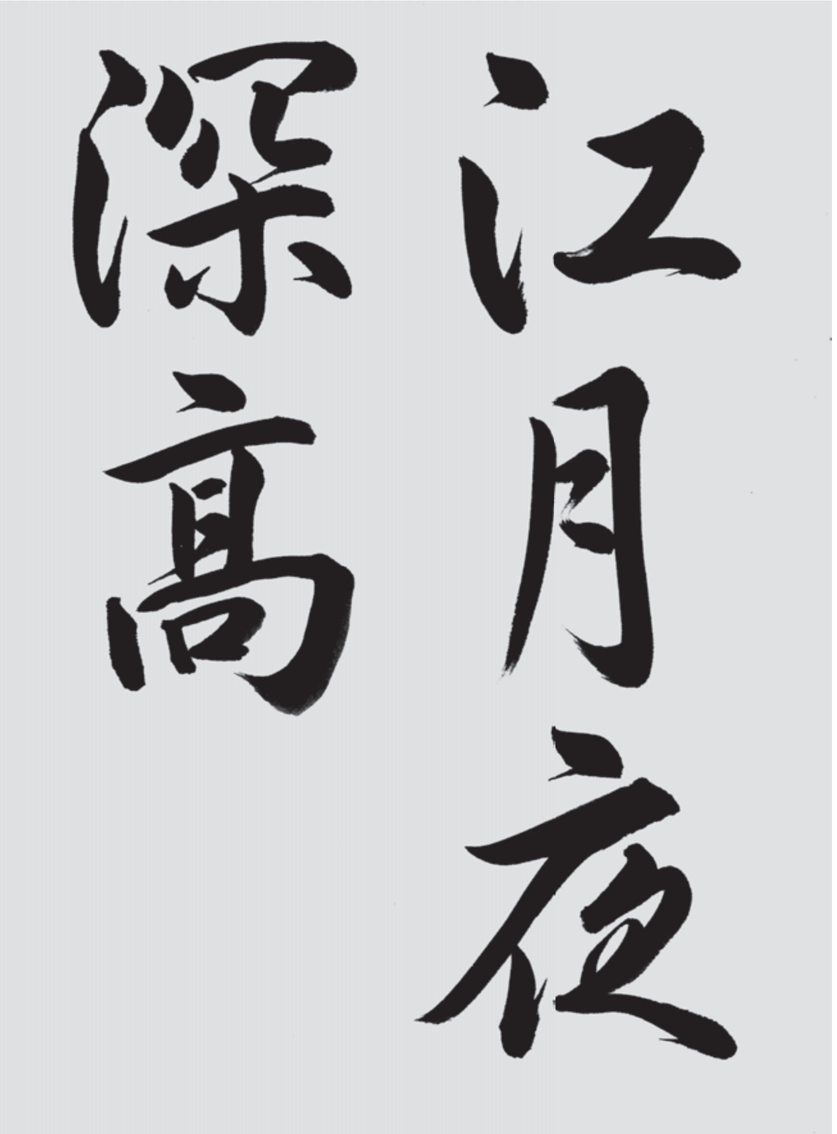


※手本はつけペン使用。　★三行目は、**指定の地名**と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り　10月25日（必着）

新入から1級まで（行書）



須田一葉（すだいちよう）書

〔読み〕 江月夜深（こうげつよふか）くして高（たか）し

〔大意〕 江上の月は夜のふけるにつれて高くのぼった。

準初段から師範まで

奥村暢之（おくむらのぶゆき）臨

成　風　淳　俗　厚　日

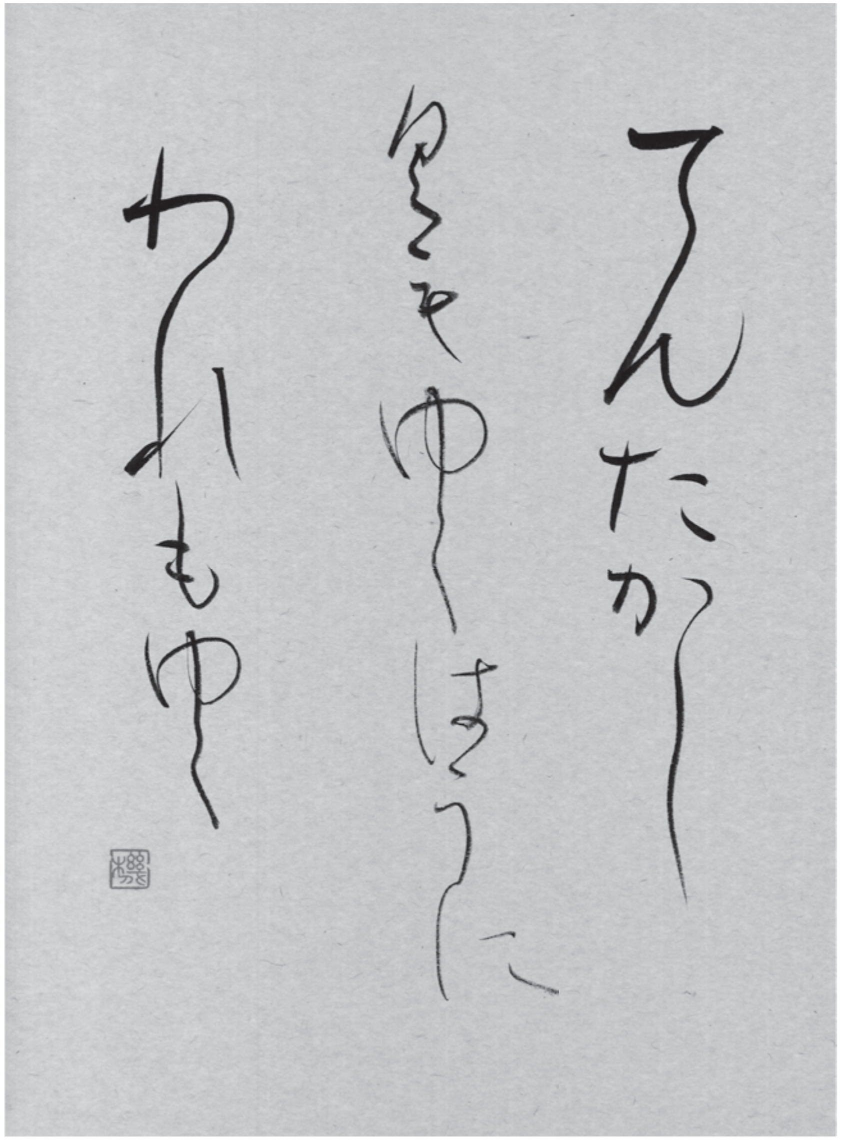
〔出典〕 孔子廟堂碑（６２６～６３３）**〔筆者〕** 虞世南（５５８～６３８）

〔読み〕（天は）成り、風は淳（じゅん）に俗は厚ならしめ、日（月の）

一般部毛筆かな課題

締切り　10月25日（必着）

新入から1級まで



浅井機山（あさいきざん）先生書

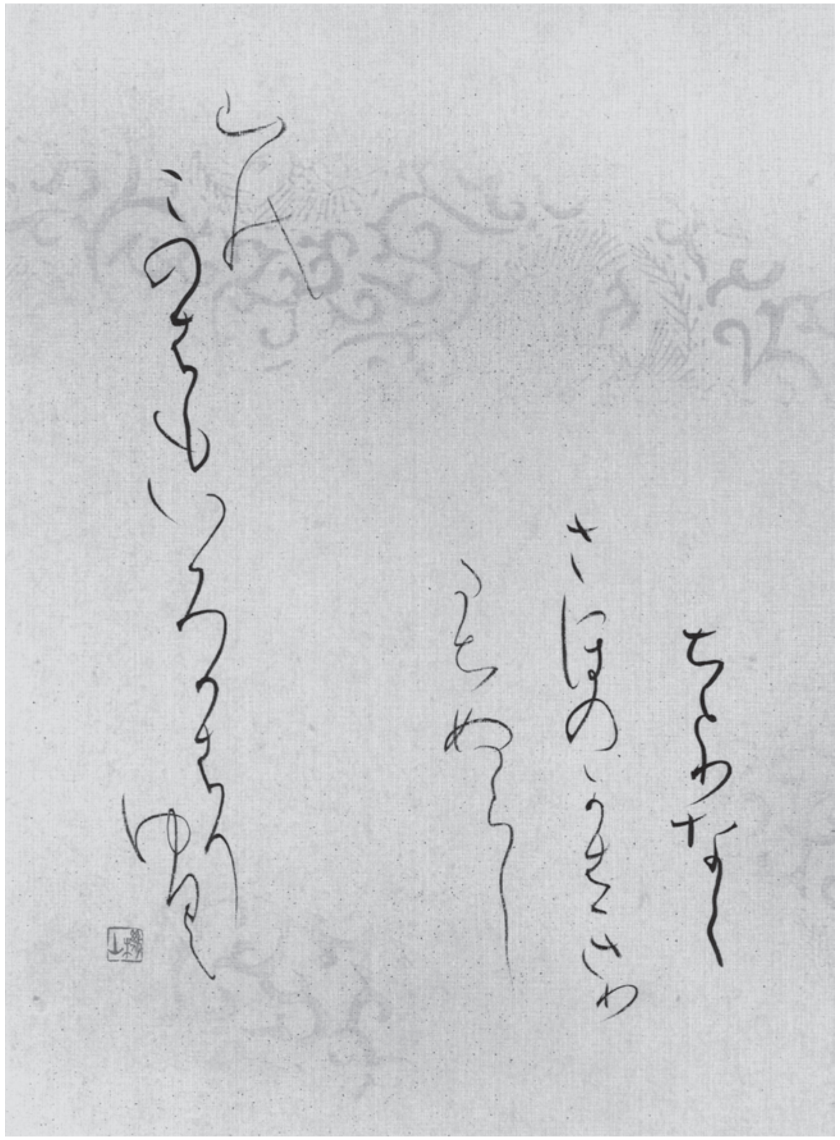
天高し雲行く方に我も行く

〔出典〕高浜虚子（たかはまきょし）

〔句意〕高く晴れた空に白雲が流れて行く。その方向に歩みを進めるという、何事にも逆らわぬ平安な心境の表れた句。

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



千鳥なく佐保の川霧立ちぬらし
山の木の葉も色かはりゆく

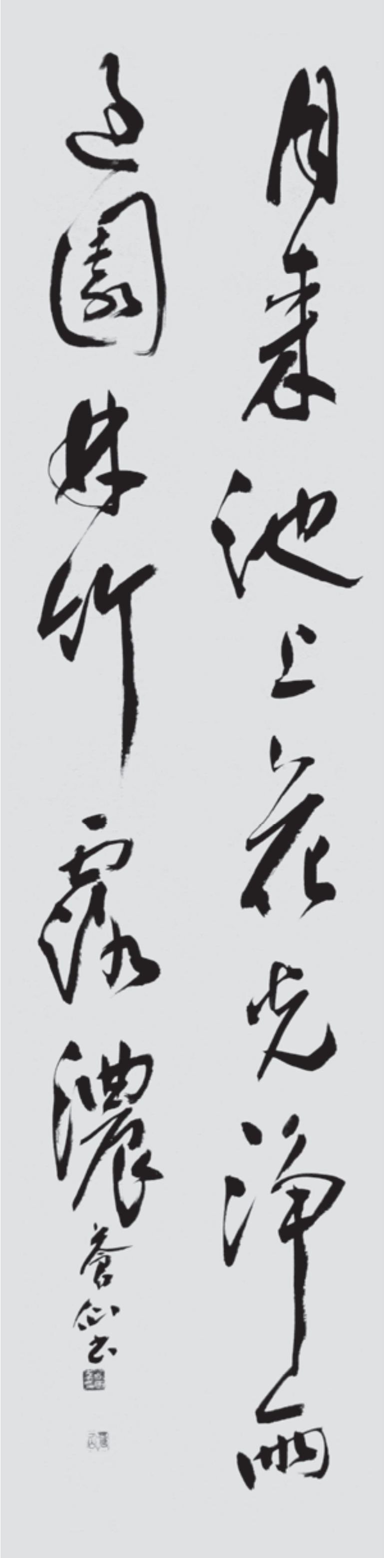
〔出典〕壬生忠岑（みぶのただみね）

〔歌意〕千鳥が鳴く佐保川の川霧も立ったようだ。佐保山の木の葉も次第に色づいてゆく。

一般部毛筆条幅課題

締切り　十月二十五日（必着）

半　切（一三六㎝×三五㎝）



荻田蒼仙　書

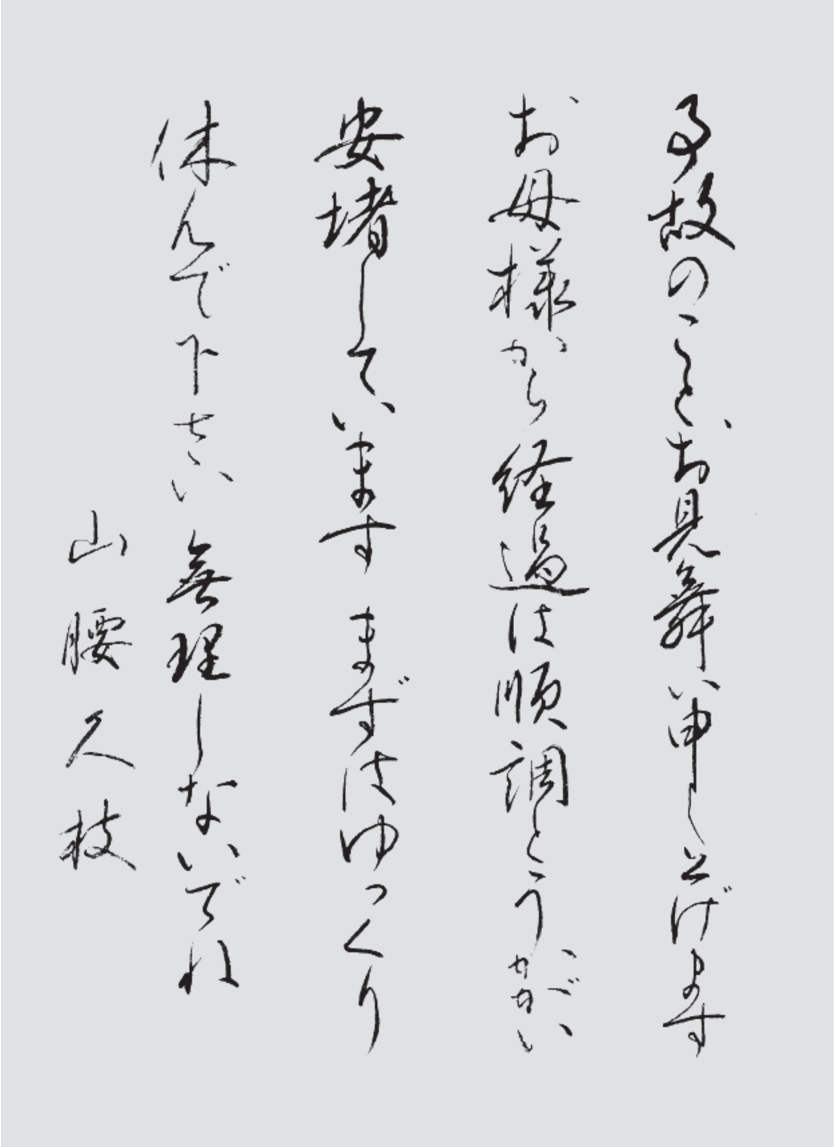
月来池上花光浄（つきはちじょうにきたってかこうきよく）
雨過園林竹露濃（あめはえんりんをすぎてちくろこし）

〔大意〕 月は池の上を照らし来て、花の光りはますます清く美しく、雨は園林を過ぎて、竹に宿った露が満ち満ちて輝く。

初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕 今月は大・小と字形の変化を考えました。異なったものを調和よくまとめることのむずかしさ。私は願ってもうまくいきません。迷いながら求めてゆく、まあ、芸とはそのようなもの。悟った顔は生涯出来ないと思っています。

一般部毛筆細字課題



半紙（３３４mm×２４０mm）　樋田玲華　書

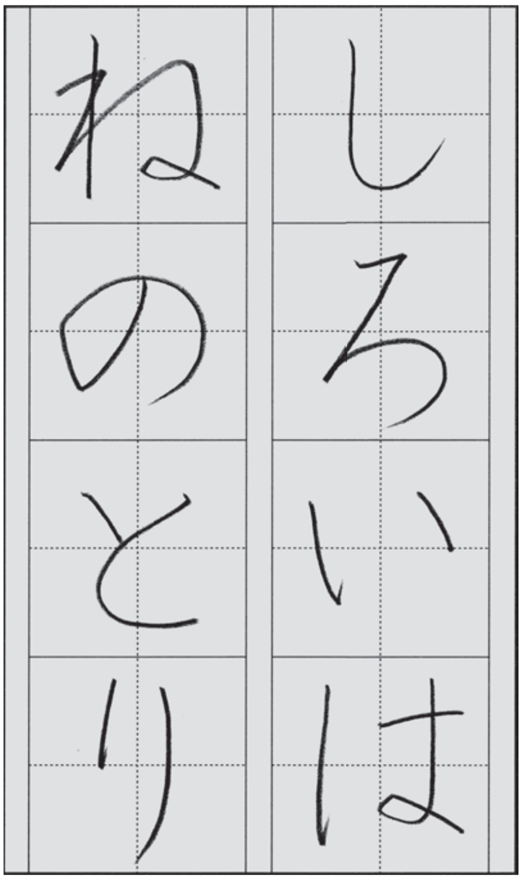
事故のことお見舞い申し上げます
お母様から経過は順調とうかがい
安堵しています　まずはゆっくり
休んで下さい　無理しないでね
（ご自分の名前）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

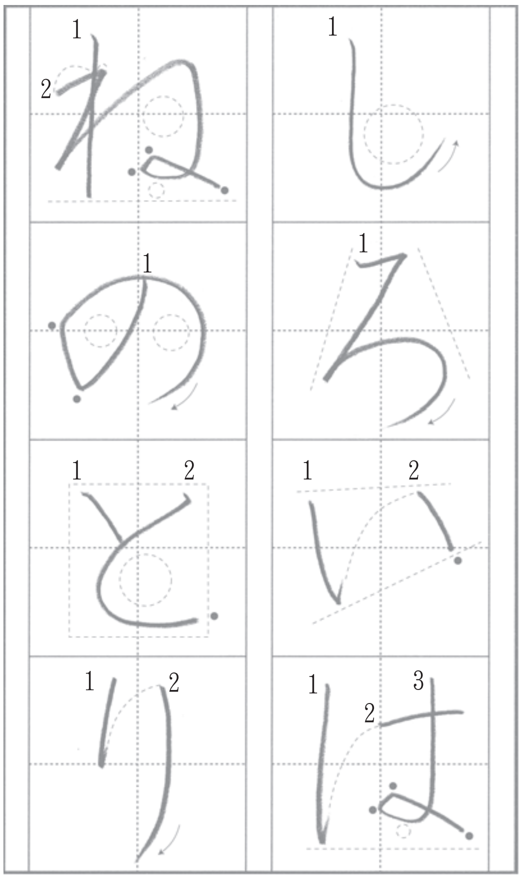
■新入から師範まで、どなたでも出書できます。
■成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
■書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よう年



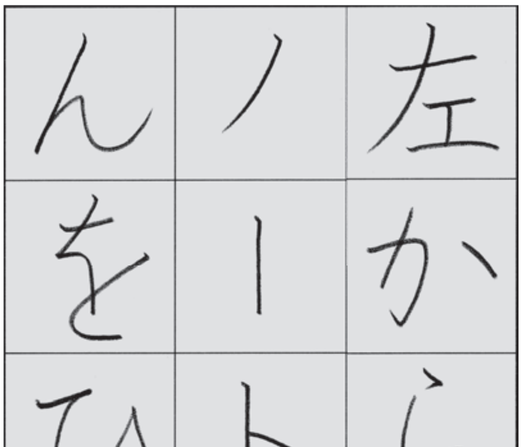
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング（なぞってかいてみよう）



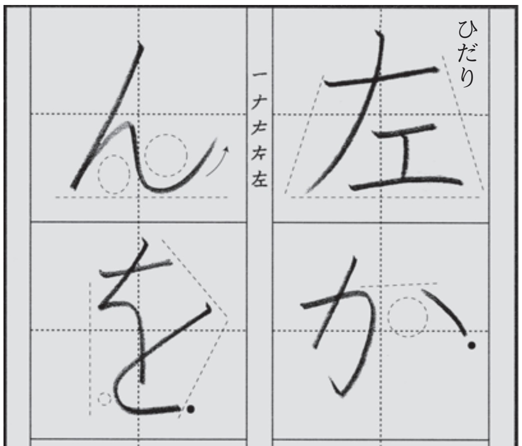
〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

小一年



準初段以上

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新入～1級

幼年～小三年まで　三宅（みやけ）容玉（ようぎょく）書

小二年

準初段以上

色づく秋の山中をお父さんと歩く

※お父（とう）さん＝単語としてこのように読みます。

新入～1級

色（いろ）づく山（サン）中（チュウ）を父（ちち）と

〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

小三年

準初段以上

虫かご持ち近くの川岸へ行きます

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

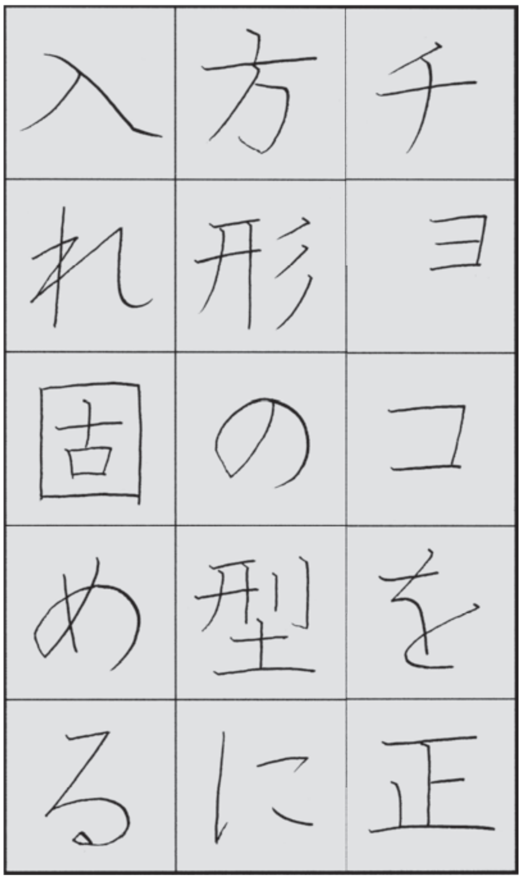
新入～1級

虫（むし）かご持（も）ち川（かわ）岸（ぎし）へ

教育部硬筆課題

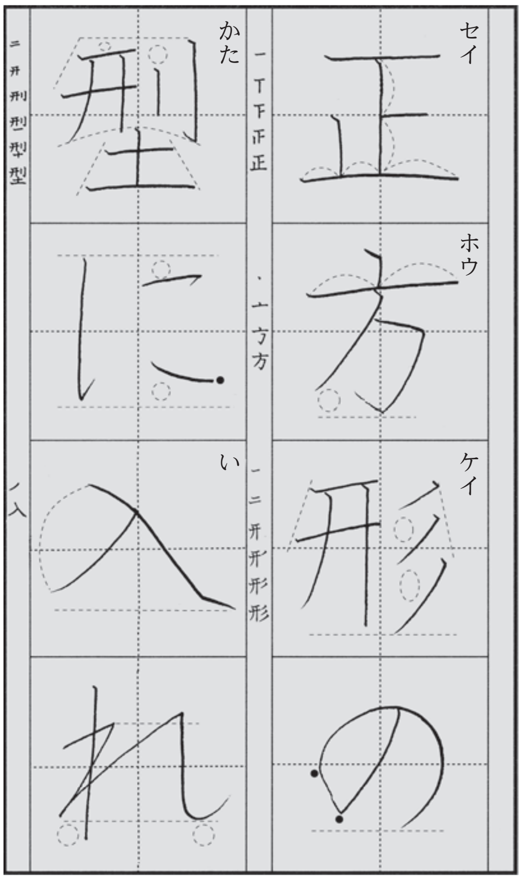
しめきり　10月25日(必着)

小四年



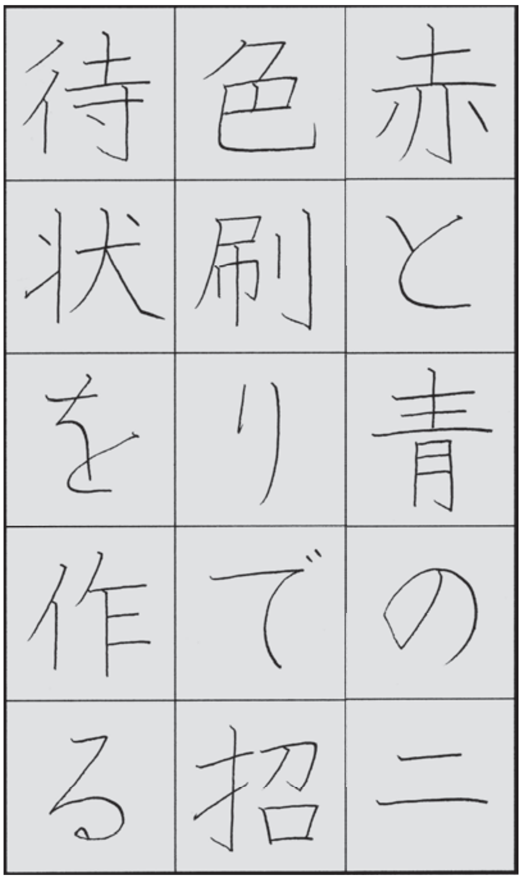
準初段以上

新入～1級



〈用具〉自由（黒色に限る）

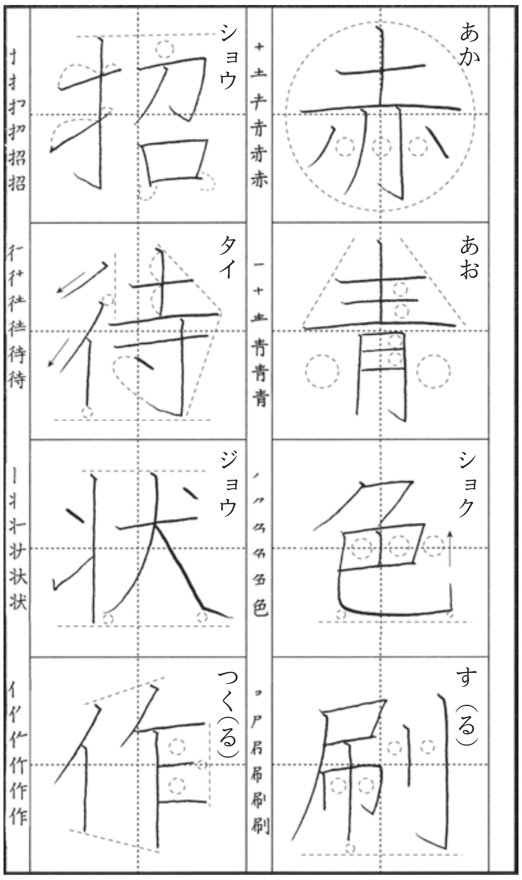
小五年



（全員）

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説（よく見て習いましょう）



小四年以上　岡嶋（おかじま）桂川（けいせん）書

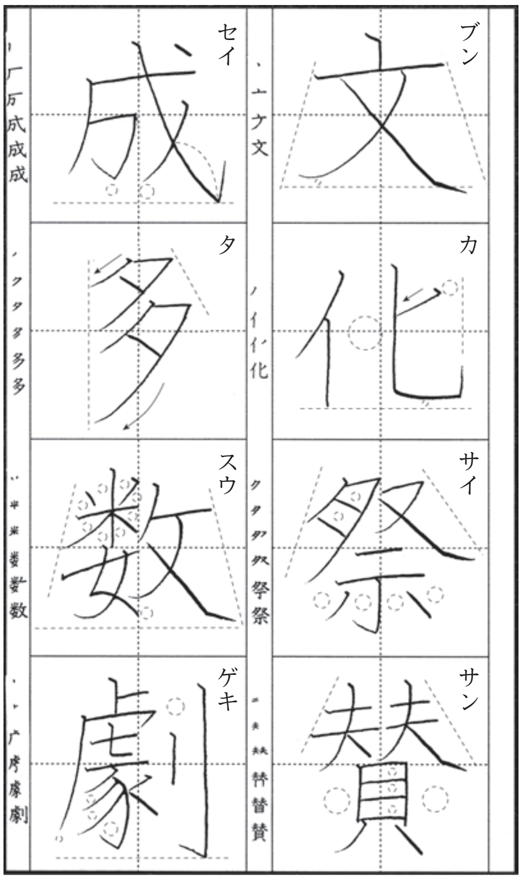
教育部硬筆課題

しめきり　10月25日（必着）

小六年（全員）

文化祭は賛成多数で劇に決まった

解説（よく見て習いましょう）



〈用具〉自由（黒色に限る）

中一年（行書）

学校が創立して百年の記念日です

中二・三年（行書）

山岳地帯に生息する珍しい動植物

こどものひろば

しめきり　10月25日（必着）

▼小三年以下の課題　　庄村紀香　書

北風と太陽が
力くらべする
イソップ物語の
絵本を
読みました

◎お手本はえんぴつ使用

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題　　清水智泉　書

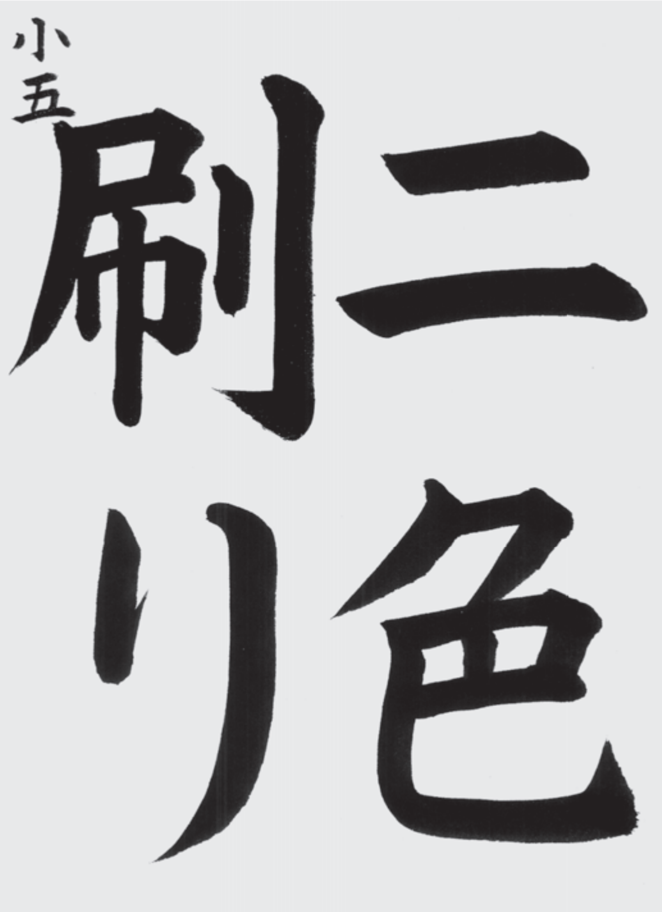
かぐや姫は
光り輝く
竹の中から生まれ
老夫婦に
育てられた

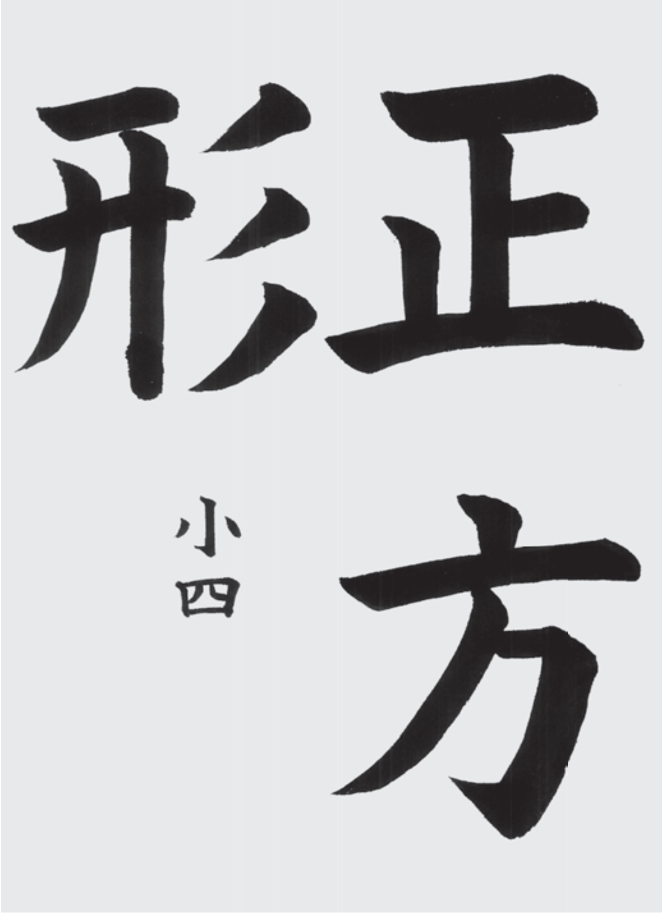
◎お手本はつけペン使用

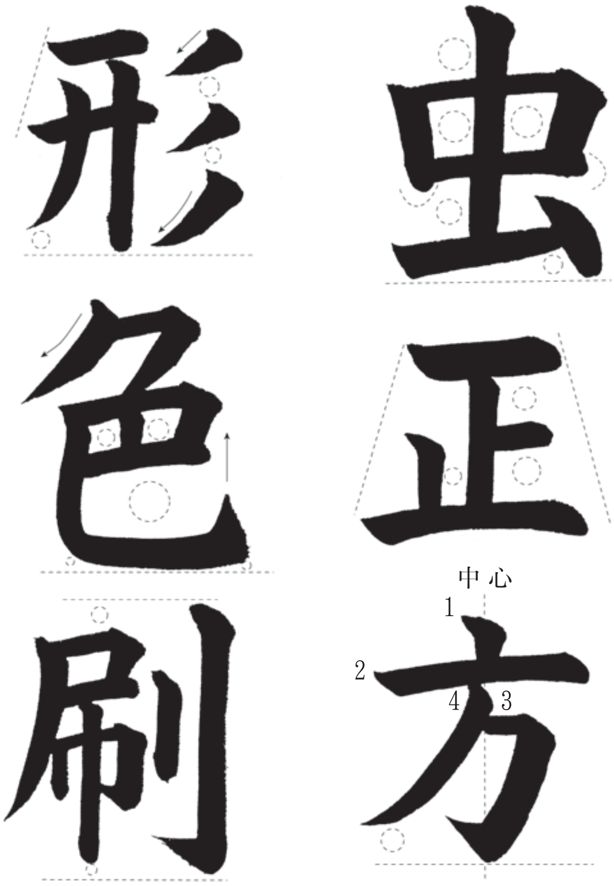
◇作品の出し方

一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
一、成績は評価により毎月変わります。
一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。**貼っていない方は新入とみなします。**

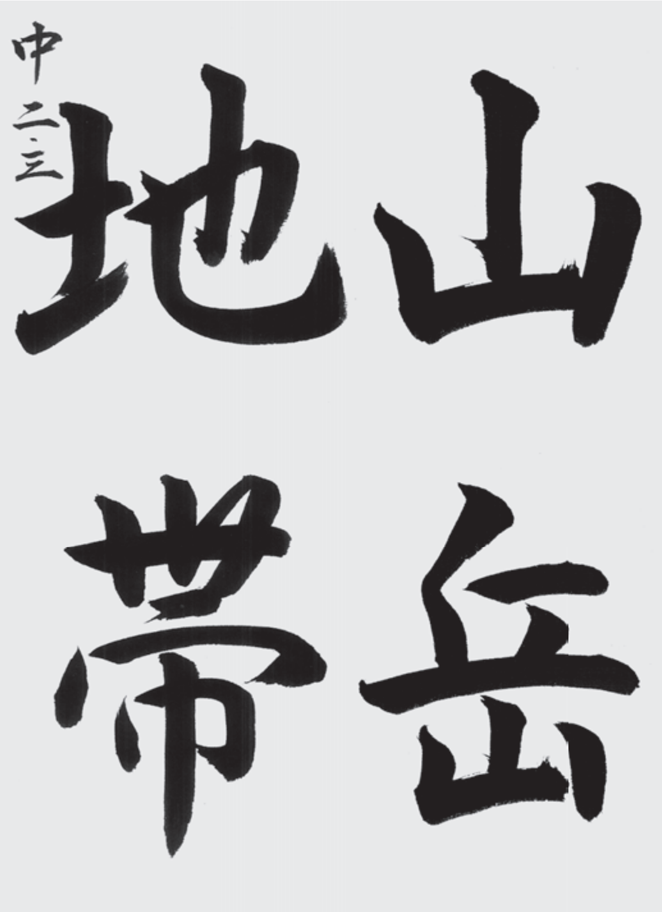
幼年〜小二年　玉樹小華（たまきしょうか）書



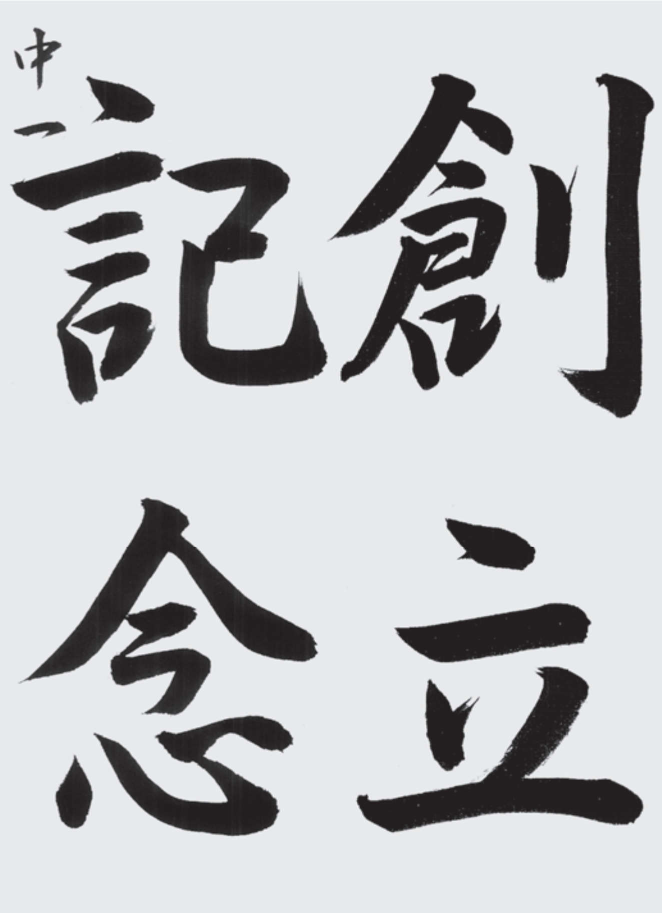




小三～小五年　水野（みずの）香竹（こうちく）書



小六～中二・三年　奥村暢之（おくむらのぶゆき）書



※行書はリズムよく筆を運ぶ事が大切です。